

研究課題名	プロポフォールを用いた完全静脈麻酔が婦人科悪性腫瘍の術後生存率および再発率に及ぼす影響についての検討
研究の意義・目的	全身麻酔で用いる麻酔薬には、ガス状の吸入麻酔薬と静脈から投与する静脈麻酔薬があります。一般的には吸入麻酔薬が使用されますが、術後の嘔気・嘔吐のリスクが高い方などでは吸入麻酔薬を全く使わずにプロポフォールという薬剤を用いた完全静脈麻酔という方法が好んで選択されます。近年、この完全静脈麻酔が、吸入麻酔薬に比べて悪性腫瘍の増殖を抑制し、生命予後を改善する可能性があることが少しずつ示されてきています。しかし、いまだその根拠は医学的に強固なものとは言えず、まだまだ多くの研究が必要です。また、過去の研究では乳癌や消化器系の癌患者様が対象とされており、婦人科領域の癌に着目した研究はありません。そこで、当院で子宮癌や卵巣癌で手術を受けられた患者様の麻酔記録や電子カルテを調査し、吸入麻酔と完全静脈麻酔という麻酔法の違いが、術後の生存率や腫瘍の再発率に及ぼす影響の有無を調べることが、本研究の目的です。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2022年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2011年4月～2015年3月に大阪市立大学医学部附属病院の女性診療科で、子宮癌または卵巣癌の治療のため、全身麻酔下で手術を受けられた20歳以上(当時)の方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、診断名、癌の進行度、年齢、性別、身長、体重、入院日、手術日、術式、既往歴、術前合併症、術前の麻酔リスク(ASA-PS)、麻酔時間、手術時間、出血量、尿量、輸液量、使用麻酔薬、術後合併症、術後化学療法、入院期間、再発の有無と再発日、死亡の有無と死亡日、血液検査データ、放射線画像、心電図、心エコー所見】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院麻酔科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院麻酔科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 麻酔科学 研究責任者 舟井優介
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 麻酔科学 (担当者氏名) 舟井 優介 電話番号：(06) 6645-2186 メールアドレス：funai@med.osaka-cu.ac.jp